

# 哲学カフェ de ぎふ

せんしゅう

## 千秋まちかど文庫 通信



運営委員会発行 (記録:安藤彰浩、編集:吉田千秋・中川健史) (主宰)吉田千秋 090-7917-9602

### 《人工知能(AI)の進展は人間に何をもたらすのか?》

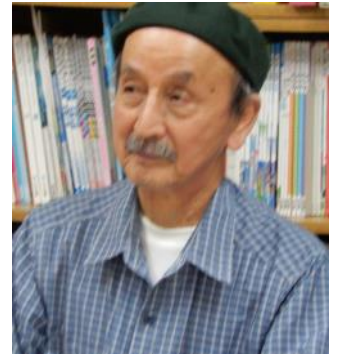
科学技術の発展、とくにAIがもたらす問題は一筋縄はいかない大きなものであることが分かってきた。人間の生活、人生、に根本から関わるものだから。

#### 問題提起・吉田千秋

- \* なぜこの問題を取り上げるのか。主旨を簡単に説明します。これまでも例会で、携帯やスマホといった私たちのライフスタイルに影響を及ぼしている新しい技術の問題を取り上げてきました。近年技術の進展は著しく、AIの技術は既に様々な分野で導入されて、市民生活にも影響を与え始めています。AIは精度や効率性において人間に優っていて、確かにいろいろなところで成果を収めています。しかし今後、さらにAIが社会生活に浸透することによって、逆に人間が機械に従属する様なことにならないか心配の声も聞こえてきます。囲碁やチェスにおいては、プロのトップ棋士がAIソフトに勝てなくなっているほど進歩が著しく、AIが特定の機能において人間に優っていることははっきりしています。
- \* AIが注目を集めるのは始めてではなく、現在は第三次AIブームになるようです。AIの問題修理能力を著しく改善させるディープラーニング(深層学習)が登場して、音声や画像や自然言語に対応して、ビッグデータを集積して問題を適切に処理することが可能になってきたと言われていています。またAIを応用して疑似体験を可能にする仮想現実の技術が、教育や技能訓練に有効活用が可能で、様々な分野で関心を集めています。
- \* こうしたAI技術の発展を前に、2045年には人類の全知能を越えるAIが作られる進化の段階=シンギュラリティー(技術的特異点)を迎えるという、私たち人間が心穏やかではいられない未来予想まで生まれています。この段階ではAIが自ら自分より優れたAIを作り出して、人間にはもはや社会がどうなるのか、生活がどうなるのか予想もできなくなると言われます。まだ十分確かとは言い難い憶測に基づいた議論も盛んになっています。進歩は確かに予想を上回って進んでいて、ロボットが様々な領域で人間の代わりに務める時代が直ぐそこまで来ているのかもしれませんが、その時は、労働現場で人とロボットが競争するようになって、人が仕事を失う様

な事が起こる懸念する声も聞かれます。

- \* 世界各国で政府や企業が資金を投入して研究を進めています。研究費の額では米国が一位の座にありますが、中国が第二位の位置にあり、今後ますます取り組みが盛んになるでしょう。しかし人々の生活の助けになるものであれば、技術の進歩に問題はありませんが、人間の監視管理、軍事分野での応用には懸念を禁じ得ません。開発には資金が必要です。従って技術の応用は、儲かる、大きな利益が期待できる分野で進められるでしょう。一体誰がどのように恩恵を受けるのかを知る必要があります。プラス面、マイナス面に関して私たちはもっと確かな認識を持たなければなりません。
- \* 多様な研究者が集まる「人工知能学会」なるものがあって、様々な提言をしているようですが、批判的な視点が欠けています。機械が人間を越えるなんてけしからんという反射的な感情的反発もありますが、AIの限界、人間との根本的な違いは、何よりも感情の有無でしょう。覚えさせて人間に似せることはできますが、AIが真の情動を持つことはできません。最近、上半分が失われたフランス印象派の巨匠クロード・モネの作品「睡蓮、柳の反映」が、AI技術を使って、色合いを推定して、復元作業が行われました。表現の真似はできるでしょうが、AIに感情、情緒を捉えることができるかは疑問です。人間は期待や願望に促され目的を持って行動します。AIが少なくとも今の段階で人間に固有の主体性や自己主張を身に付ける事ができる様には思われません。
- \* AI技術は人間の生活を豊かにする可能性を秘めています。しかし、懸念材料も少なくありません。顔の認識は犯



罪究明に貢献できますが、容易に人間の管理に転用できます。警察は市中に設置された数多くのカメラを通じて何処で誰が何をしているのか知ることができます。軍事分野では、今はまだ敵を攻撃するドローン进行操作するのは攻撃側の人間ですが、将来、AIがドローンをコントロールして、自らの判断で攻撃する戦争が展開されるのでしょうか。核兵器や生物化学兵器と同様に原則禁止とな

るべきものだと思います。

\* AIはいろいろな可能性を秘めています。使う側の問題ですが、科学技術が常にプラスとマイナスの可能性を持っていることを忘れない様にしなければなりません。AIに関してはまだ知らないことが沢山あります。今日は勉強を兼ねて意見交換できればと思います。

## 意見交流

\* イギリスでAI搭載のトンボ型の兵器が開発されたと言う。人が戦線に居合わせない国家間の隠れた戦争が始まるのか。魚型のロボット兵器が作られるなど、間もなく空母が時代遅れになるかもしれない。AIを備えた兵器の開発が進み、戦争の形が変わってくる。

\* 本当にAIが人間を上回って取って代わる時代が来るのか。ちょっと心配である。

\* AIは計算機に過ぎない。計算で回答が得られる分野では優れている。統計や確率から答えが出せる問題では人間は太刀打ちできない。しかし言葉の意味とかを十分理解できないので、入試の問題を解いたりする能力は高くないらしい。それを知って少し安心した。保険とか、銀行業務で、数字を扱う仕事では人の代わりをするだろう。戦争などでも、定められた目標を正確に攻撃するとかは簡単にできる。簡単な仕事は将来なくなるだろう。

\* AIは読解力が無いと言う。しかし最近では人間も劣化していて、長時間の集中を要求する映画なども話が分からなくなる若者が増えているとか。多くの者がAIに仕事を奪われるだろう。

\* AIが助けとなることはあっても本当の意味で人間の脅威になるとは思わない。人間はむしろ、AIの迅速で正確な仕事を活用して、仕事の質を上げることができる。人手が足りないで注文を受けられない企業が増えている、中小企業は深刻な状況にある。AIは救いにこそなれ、脅威などではない。AIが人を越えるほど優秀になっても問題ではない。AIは意識を持って、自己に目覚めて権利を主張して、人と争う様なSF的な状況が生まれたら話は別だが、今のところ、言葉を十分に理解するところまで行っていない。プログラムを作っている人間が、言葉を理解するって事の意味を理解していないから、そういうプログラムが作れない。いわんや、自己意識を持っていることが如何なることか、人間自身がまだ十分分かっていない。AIが自分の存在を意識して、独立した個体として自ら目標を定めるようになったら、人間の地位は危うくなる。これは

しかし完全にSFファンタジーのレベルの話である。AIはまだ道具に過ぎない。

\* 優れたAIの登場で、事業の成功の見通しや、世界の経済発展の予想などが正確になれば、株取引などでも使える。経済や社会の現実が違ってくる。

\* 自動運転の無人電車が、信号が伝わらず逆行してしまう事件や、AIによる自動運転の自動車人が人を撥ねる人身事故を起こす事件も起きている。ペルシャ湾でイランが米国の偵察ドローンを撃墜する事件があって、軍事的な緊張が高まっている。領海を侵犯したとか、しなかったとか双方の意見が食い違っていて、真相ははっきりしない。米国は世界の至る所に偵察網を持っていて、何が起きているか把握しているようだが、自分たちの戦略を優先して真相を明らかにする証拠は公開しない。

\* 人間の愚かしいエゴイズムを反映した現実の政治に対するいら立ち、あるいは良心の呵責が、SF的なファンタジーを刺激するのは確かである。SF作家のアイザック・アシモフは、自らが提案したロボット3原則を逆手に取った“私、ロボット”というタイトルの皮肉っぽい作品を書いている。第一原則：人に危害を加えない、第二原則：人の命令に従う、第三原則：自分を傷付けない。三つの原則が互いに抵触する場合、第一原則が優先される。人間に奉仕するために各家庭に配備されたロボットを一括して管理監督するスーパー人工知能は、ロボット3原則から、「人間は放置すれば互いに争い殺し合う。人間の生命を守るためには人間の支配を終わらせる必要がある。そしてそれが人間自身のためである」という結論に達して、人間に対する反逆を実行に移す。先月世界公開されたゴジラ映画も、狂信的なエゴ・テロリストが人類の存在は地球の脅威で、怪獣を呼び覚まして、人類を滅亡させることを目論む、という話しである。

\* AIの能力が人間を越えたらどうなるのかと、想像力を逞しくしてSF的な世界を思い描いている議論しても余り意味がないと思う。今後いろいろな形で導入が見込ま



れるAIは、労働環境を大きく変えると想定出来る。AIによって労働がどうなるのか、人間の生活がどう変わるのか。AIがいろいろな分野で人間の代わりに仕事をしてくれるなら、むしろ多くの人間は煩雑で心身を消耗させる作業から解放されると言えないだろうか。人間は自分の為に自由な時間を享受できるようになるかもしれない。マルクスなどは労働を人間の活動の本質的な部分と考えたが、古代ギリシャの人たちはそういう風には考えなかった。物質的な生産活動は人間が生存する上で、不可欠なものであるが、古代ギリシャでは奴隷が従事した生産活動の大部分をAI技術の進歩で機械が遣ってくれるのであれば、人間はもっと社会的、公的な活動に専念できるようになる。

\* オフィスの事務処理や工場の作業現場のロボット化は確実に進められるだろう。でもそれで人間が解放されるだろうか。逆の事が起こる。多くの仕事をロボットが片付けられれば、人間のやることは限定される、それによって労働自体が単純化して、人間の価値の均一化も進む。

\* 働かない人間は無価値と見なされて、社会から排除されるのではないか。

\* AIで社会全体が豊かになっても、全ての人がそれを享受できるとは限らない。自然淘汰が進む。

\* 1815年頃、産業革命が進んだイギリスでは、工場の機械化によって、職を失うことを恐れた労働者たちによるラッダイト運動と呼ばれる機械打ち壊し運動が展開された。運動そのものは的外れで、勘違いに基づくものだった。問題は機械化による合理化で上がった利益をどう分配するかということ。不満の矛先、意見をぶつける相手は機械ではなく、資本家であった。雇用されている者がしばしば資本の道具になる構図は時代を経てもまだ続いている。

\* AIが未来のために必要な大きな進歩をもたらすとしても、人々が豊かさを分け合うことが出来るのかは別問題

である。新しい社会の仕組みを構築する必要がある。

\* コンビニでも、既にAIが活用されている。顧客データがあって、個々の消費行動が分かるようになっている。アルゴリズムを使って、顧客の好みに対応してピンポイントで品揃えをすることができる。

\* 多くの貧しい人が豊かな生活に憧れて米国に行きたがる。あるボスニアの家族は同じ様な理由で米国に渡ったが、またボスニアに戻って来た。仕事中心の忙しい生活がなじめなかったらしい。

\* AIなどの技術の進歩による生活の変化を感じる。スマートメーターを使って各家庭の電気の使用を逐次把握することができる。中部電力に生活を覗かれている様な気がして嫌な気持ちになる。役所などはパートタイムで行なう様な雑用的な仕事のために人を雇う代わりに、高額な機械を導入して済まそうとしている。本当に割が好い話なのか。生活費の足しにするために、パートの低賃金労働は小遣い稼ぎになっているのに。

\* スマートメーター設置の主な目的は月々の検針が大変だからである。家が留守であれば検針員はメーターを見ることができないので、何度も出直さねばならない。そもそも電力会社はそれ程暇ではない。個人のプライバシーが侵害される云々は杞憂に過ぎない。

\* 中国は積極的にAI技術を国民の監視に使っている。監視カメラの画像からAIが簡単に人々の認証をすることができる。

\* ウーバー(自動車配車ウェブサイト及び配車アプリ)は全く異なるビジネスモデルで、タクシー業界に新しい風を吹き込んでいる。登録制で免許と自家用車があれば誰でも自由時間を使って始めることができる。日本では規制が多い様だが、世界各地で急速に普及している。便利で安価ということで利用者にも好評で、その分各地で既成のタクシー業者と激しい客の奪い合いが起こっている。ロンドンでも業界が反対運動を展開するなど議論があ



る。インターネットとAIを活用した新しいビジネスが次々と生まれている。

- \* ウーバーでは事故や客と運転手のトラブルなどにどう対応するのか。会社で損害の補償をしてくれるのか。訴訟になった場合誰が責任を負うのか。
- \* それは主に当事者同士の問題となるらしい。ロンドンで利用した経験があるが、運転手は総じて親切だった。顧客と運転手の相互評価の仕組みがあって、客は運転手を選ぶこともできる。個人間の競争があるから変なことは出来ない。
- \* アフリカというと発展途上国というイメージがあって、知らない人は世界の潮流から取り残されているかのように思いがちだが、首都など都市部の生活は先進国の都市と少なくとも外見は全然変わらない。多く人が当たり前のようにスマホを使っている。
- \* 職場の上司が仕事は苦痛であるといつもぼやいていたが、働くことに喜びを感じている人も少なくないと思う。お金のためだけに働く訳ではない。AIに反対ではないが、軍事利用は問題だ。
- \* 海外旅行の場合、出入国の手続きが面倒だが、AIの導入で身元確認など手続きが簡単になるだろう。
- \* AIは人知を越えるのか。AIが芸術文化を創造する力を持つだろうか。松尾芭蕉の俳句の素晴らしさを理解することができるとは思えない。まね事以外はできない。
- \* 日本は社会保障の2040年問題と称される危機に直面していると声高に主張する人たちがいる。2040年頃現役世

代1.5人が高齢者1人を支える状況になると言う。AIが人に代わって働いてくれるなら、危機は言われるほどの危機ではないのか。人間はもう子どもを作らなくなるかもしれない。

- \* 科学の進歩は著しい。科学技術がいつどこまで進んでいるかは予想し難い。人間の身体が老化しても、人間の脳をコピーしてAIに植え付けることで、死を克服する時代が来るかもしれない。
- \* AI問題に触発されて、宇宙の進化を含め人類の進化の歴史を振り返って見た。宇宙は今から138億年ほど前に生まれたと推定される。地球は約46億年前に、そして生命は約38億年前に誕生したらしい。太陽は自然な進化の過程で数十億年先に水星などを吸収するほど膨張して赤色巨星と化して、地球は温度上昇で生命は死滅することになる。しかし今地球は文明によって、産業社会の発展によって、つまり人間自身によって変えられようとしている。多様な生命を生み出した地球の環境が、環境汚染、気候変動等によって人間を含む多くの生物の生存にとって好ましくないものになりつつある。地球環境が今後どうなるかは、人間次第、人間社会全体の政治的決断次第で決る。文明の発展で、人間の考える力も磨かれ、知識は膨大なものとなったが、生活が快適に便利になって、肉体的力は退化している。AIは今後人間に何をもたらすのか。
- \* AI化って一体何なのか未だによく分からない。人間はなぜこういうものを追い求めるのか。一体誰が社会を一定の方向に向かわせるのか。

## 意見交流の最後に

\* 空想に限界はありません。AIの問題を議論すれば、突飛な話が出てきても不思議ではないかもしれません。私たちにとって重要なことは、社会がどういう方

向にむかおうとしているのかしっかり見定めることです。人間が幸せに生きる為にはどうすればいいのかを常に念頭において考える必要があります。

\*文明は快適さを求めて、便利さやスピードを高める方向に動いてきました。しかしスピードの様なものは本当に最優先で求められるべきものなののでしょうか。また、私たちは清潔を重視し、不潔、不衛生なものを排除し、ひたすら清潔で衛生的な生活の実現を心がけて来ました。そのために元来自然な環境の一部であるようなものまで生活の中から排除されることになりました。都会の人間は無菌、無臭に慣れて、田舎では当たり前の自然から疎外された状態で生活していることに気付きません。そうした状態が本当に快適と言える望ましいものなのかは疑問です。

\*さらに、専らワープロを使うようになって、万年筆も使わなくなりました。キーボードを叩くだけで、書く感触は何もありません。まったく味気ないものです。東北の話ですが、急行電車に乗ったお婆さんが乗っている時間が短いのになぜ余計にお金を払う必要があるのか、と苦情を述べたということです。何でもスピードアップの現代社会を揶揄するエピソードです。利潤を追求して時間をコントロールしようとする試みによ

て、誰かが余裕を奪われ、不当に搾取されることになっていないか、注意する必要があります。

\*最近テレビのコマーシャルを見て気付くことは、健康食品の宣伝が多いことです。薬を飲んで健康になる。何でも商品化される時代です。老人の多くは病院通いが日課になっています。こういう生活が本当に楽しいのか、満足すべきものなのか、ちょっと考えさせられます。一回限りの人生です。どう生きるのかが問われています。人間って何か、人生って何か、こうした視点を忘れないで、私たち自身の、社会のあり様をリアルに真剣に捉える必要があります。

\*今日の私たちの社会では、何でもかでも、売って儲ける資本が媒介して事が進められて行きます。如何なる場合も、生活する庶民がないがしろにされるようなことがあってはなりません。AIの問題も、人間の生活、存在にかかわるもので、本当はもっとシビアで怖いものかもしれません。今後さらに考えていきたいものです。

## 参加者の感想

- 今日は途中からの参加になってしまいました。思ったことは、AIについて話し合うにあたって、私たちはAIについて知らなさすぎるのではないかと思います。もっとわかりやすく、AIについての情報を得ていきたいと考えました。(雄也)
- 今日はいろんなところへ話しが飛んで、ついていくのがたいへんでしたが、これが世の中の現状をそのまま表していると思いました。どうしていいかわかりませんが、自分なりに考えていこうと思いました。(イソ)
- AIは両刃の剣で、切った刀で自身も実を切られる。考えてみると恐ろしい時代に差しかかっているのでは？(安永)
- 今日の例会では、AIをどう認識し、今後AIの進化によってどのような影響が表れるかについて、個々人の間でかなり考え方の違いがあると感じました。自分は新井紀子さんの著作に書かれた内容を支持します。うがった見方ですが、今はAI関連の人々が、資金を引っ張ってくるためにAIバブル状態にしている側面もあるんじゃないかなと思ってしまいます。冷静に考えることが大事なような気がします。ただ人間の存在意義を考えるにはいい機会かなと思いました。(たなか)
- AIについて、色々な考えが聞けて面白かった。AIはあく

まで「人工の知能」であり、それ以上のものではないと感じた次第である。SF小説に出てくるような色々な無限のAIの可能性を想像することは楽しいものであるが、AIの弱点と「負」の局面を見逃してはならないと思う。AIをコントロールする「責任」は人間の側にあり、「誰が誰のためにどんな目的のためにAIを使おうとしているのか」、しっかり見ていきたいものである。(MS)

- 計量的思考では近いうちにAIに追い越されるだろう。だから質的思考、言うなればAIにできない発想力、質的思考が求められると思う。この点で従来点取り主義、記号解答という日本の教育の根本的変革が求められる。共通テストを少しいじったくらいでは到底追いつけないだろう。(ひらみつ)

- 議論の中でも指摘されたが、AIによるビッグデータの集積とその分析からくる応用は、データの平均値から見てこうなるはずとかこうすれば効率上がるといったものだ。しかし、現実にはデータの平均値から導かれる関係性以外の因果律で連鎖していくことも多い。昨年だったか、「AIに小説が書ける？」といったテーマの論議が紙上にあったが、いくら「例外的なストーリー」をAIにたくさん教えておいても、AIは人間の感情など非論理の応答が絡む小説の世界は描けないのではないかと。子育てや教育の分野でも同様で、AIに任せられる分野は限定的

で、状況を判断し利用するかどうかはやはり人間しかできないのでは。 (フィリピン・ウオッチャー)

○空気・水・太陽は誰の持ち物でもない。近年例外はあるが、だれでも自由に利用でき生活や生産活動の多方面で活用されている。電気(電力)・情報装置と機構は所有者がいる。人々が「自由」に使用したり移動したりするデータを所有者が集積し、顧客支配や国家が人民支配に活用することができる。直近未来数十年の課題はこれらを所有権から切り離し民主的管理に移行することである。 (アダム・スミス)

○若い方から年配の方まで、皆さんよく世の中のことに関心を持ち勉強していらっしゃることに驚きました。自分の無知を知らされました。少しずつですが、皆さんに追いつけるように努力していく所存ですので、これからよろしくお願いします。

○AI に関心のある方が案外多い事に気づきました。ただ、実際の生活よりSF 的な傾向の意見が案外あることにも違和感があった。それで、私も SF的にAI と人間について近未来を予測してみました。神は神の姿に似せた人間を創造した。人間は禁断の実を食べて食べないと存在できなくなった。「奇跡のリンゴ」の木村秋則さんによれば地球のカレンダーはそんなに遠くない未来に無くなっている(『すべては宇宙の采配』より)。人間はAIの技術で神に似せた体を捨てて衣食住や生殖の機能を廃棄した脳の記憶をAI脳に転写して霊として形を持たない新たな生命になる。新たな生命? 脳の一部の機能を捨てた霊とだけしか、私も解らない。

日常と AI 技術について ミシンの例えがありました。失業した労働者はどのように救済されたのか、また地域で消費できない余剰な製品は誰がかわされたの

か。AI 技術は今後労働者の削減に向かうのか。携帯電話のように移動手段は従来の鉄道・道路に替わりドローンの割合が多くなるような気がします。相変わらず鉄道・道路のインフラから抜け出せない日本では、鉄道・道路の社会資本の負債にあえいで生活弱者は重い税負担に苦しむ。いまから、貨幣経済への依存の少ない生活基盤を備えた生活への移行を特に生活弱者は摸索した方がいい。 (行文和平)

○参加者の意見は不安や歓迎とまちまちで、AIとどう向き合うかは手探り状態にあるのだと思った。みんなの意見を聞きながら次の3つの視点で今後考えていきたいと思った。

1. 暮らしそのものが歪められ縮んでいく不快感。…家電機器にいろいろなセンサーが付き、お節介をする。冷蔵庫もガスレンジも洗濯機も、正常でないと警告音を発し火が消える。「私は焦げた魚が好きなの」というが、聞いてはもらえず。いろいろな暮らし方があっていい。暮らし方には幅があるはずなのに、正解はひとつしかない。ひとつ・一律となるよう強制される。なるべくなら簡単便利なものからはなれて暮らしたい。
  2. 個人の暮らしから各種のデータを企業が蓄積・管理することの不快感。…そのデータを支配者が使うことができるという恐れ。スノーデン氏の暴露があったように。
  3. 吉田先生が言われていたこと。…労働現場や軍事分野に導入されるAI機器のように、どういふもとで導入し、どう使い、どう分配するかという主体は資本家。人間を雇って成果をうみだす者は残るが、できないものは駆逐する。
- 1,2,3の問題それぞれに、合意形成と政策がいると思った。 (尚)

## <三陸だより (5)>



### ～高校野球と農学校～

岩手県の沿岸にある公立高校、大船渡高校。震災のときには避難所にもなった高校です。三陸沿岸の高校生は小学生の頃に被災しており、避難所生活を余儀なくされた生徒も多くいます。この大船渡高校の名が全国に知れ渡ったのが、今年の高球野球の岩手大会でしょう。

最速160km/hを超える投手、佐々木朗希選手が注目されたことはもちろんですが、地元生徒が懸命にプレーする姿は、被災した地域住民に勇気を与えました。決勝で敗れたものの、部員・スタッフがひとつになって強豪校に挑んだ姿は、多くの感動をよびました。

岩手の公立高校が甲子園に出場したことは、1994年の盛岡第四高校以来ありません。メジャーリーグで活躍する菊池雄星選手や大谷翔平選手を輩出した花巻東高校をはじめとする私立高校が強豪の岩手県ですが、地元の仲間とプレーする公立高校が躍進すると、地元はこぞって応援し、大いに盛り上がります。

大船渡高校は、1920年設立の「気仙農学校」を母体としています。大正の時代から、ときにやませが吹く三陸沿岸の農業を支えた農学校を起源としており、地元住民はどの世代でも大船渡高校に愛着を持っています。そういえば、

昨年甲子園をわかせた金足農業高校(秋田)も記憶に新しいと思います。

さて、大船渡高校の監督は、国保陽平先生です。国保先生は、大船渡高校に異動する前、花巻農業高校でも野球部の監督を務めていらっしゃいました。その花巻農業高校には、宮澤賢治が作詞した、「精神歌」というものがあります。その一部を紹介して、今回の三陸通信としたいと思います。すべての歌詞を知りたい、という方は、ぜひ「花巻農学校精神歌」と検索してみてください。賢治先生の「農」への思いが伝わってくるようです。

一宮澤賢治「花巻農学校精神歌」(抄)一

日ハ君臨シ カガヤキノ

太陽系ハ マヒルナリ

ケハシキタビノ ナカニシテ

ワレラヒカリノ ミチヨフム

(M)



(花巻農業高校にある、賢治ゆかりの羅須地人協会)



## <世界一週貧乏旅 その1> 「土産が買えない日本人の折り紙教室」



みなさま初めまして。外国をふらふらと旅したタニと申します。外国を旅したと聞くとなにやら大層な響きなのですが、現実はずっとの貧乏旅行なのです。

カンボジアへ行った時のことですが、観光地へ行くと必ず子供のお土産売りの子達がありました。もちろん僕はお土産なんて買える余裕はないので「ごめんけどいらないな～」なんてやんわり断っていました。

しかし彼らはそれでは引き下がらず、「ほら！見て！」と無理矢理品を押し付け、「ねえこれいいでしょ？2つ買う？」などともすごい押しの強さで商売を挑んできます。途上国の彼らにとっては、日本人なんて気弱な大金持ちでしかありません。せっかく外国に来たのに、現地民から太った財布くらいにしか見られていない事に僕はげんなり

してしまって、気持ちが乾燥したみたいにカサカサしてしまっていました。

ある日、カサカサの僕はカンボジア内の別の遺跡を訪れました。ひとしきり観て回ると、ベンチとテーブルを置いた休憩所のようなところがあり、そこに6人のカンボジア人の子供たちがいました。

彼らは僕を見ると、「ミスター、マニーマニー」と言ってきて、ああまた僕はカモ扱いかとがっかりしましたが、試しに日本から持って来た和柄の折り紙を見せてみました。すると、「なにそれ！」と意外にも食いつき、また試しに鶴を折って見せると、「それ！！どうやって作るの！？」と興奮していました。も…もしかしてこれ商品にするのかな…なんて心配しながらも、この子達に折り紙教室を開くことにしました。

ひと手順ごと丁寧に折り方を教えると、ある子は上手く折れなくて「ミスター…」と泣きそうな顔で助けを求めてきたり、ある子は飽きてビュンビュン走り回ったり、笑ってしまうほどに子供らしい姿なのでした。数時間後、帰りの時間が迫っていたので、僕は彼らに写真を撮ろうと言うと、みんな喜んで写ってくれました。

その帰り道、僕はなんだかカサカサが潤ったような気持ちでした。きっと、彼らの現実とはとても厳しく大変なものなのかもしれませんが、折り紙が楽しくて笑ったりしたことが、彼らにとってほんの少しでもいい思い出になっていたらしいなと思いました。

(カモノハシ タニ)

2019年後半 **哲学カフェ、第23期の予定**

場所 岐阜市八代3丁目27-8「ふれあいスペース」

**例会は19:00～21:00です。**

第134回例会 8月8日(木)	<b>「参議院選挙の結果から何を学んだのか？」</b> * 7月21日の参議院選挙の結果、自公政権与党は過半数を得た。だが、最大の焦点だった改憲3分の2は維持できなかった。この選挙から私たちは何を学んだのか。
第135回例会 9月12日(木)	<b>「老人も若者も信頼できる年金制度とは？」</b> * 「100年安心」と言われた現行の年金制度は維持が危ない。年金でしか生活できない老人たち、将来に不安を抱える若者たち。両者が信頼できる仕組みは可能か
第136回例会 10月10日(木)	<b>「東京五輪は一体何のため、誰のためのものか？」</b> * もともとウソで始まった東京オリンピック。「節約に努める」との約束も反故にし、一時の景気拡大、儲けのための、巨額投資。一体何のため、誰のためのものなのか
第137回例会 11月14日(木)	<b>「子どもの虐待が増えているのはどうしてか？」</b> * 最近子どもの虐待が増えている。どうしてこんなことになったのか。障がい者への差別、いじめにつながる人権軽視の大きな流れの一端なのか。真剣に考えてみたい。
第138回例会 12月12日(木)	<b>「日本の男女平等はどうして進まないのか？」</b> * 参議院選挙で女性の当選者は18名で過去最高タイ。でも、世界ランク130位。2018年調査で、総合指数で世界110位。どうしてこんなに進まないのだろう。

**哲学カフェの運営資金の協力** も、よろしくお願ひします。口座記号・口座番号 00810 1 142912

加入者名 哲学カフェ de ぎふ、千秋まちかど文庫

**「哲学カフェ de ぎふ」ホームページ 毎回更新中 !!** <http://tetsugakucafegifu.jimdo.com/>

または「哲学カフェ岐阜」で検索

わいわいがやがや

アラカルト



- ★日本の梅雨を逃れるために、1週間ほどイタリアのフィレンツェに行ってきた。初めてのイタリア旅行であったが、「何事も見ると聞くとでは大違い」。イタリアのルネッサンス芸術と文化遺産に圧倒された旅行であった。
- ★まさに、“Art is long. Life is short.”を実感した。フィレンツェは、都市自体が美術館と言われる理由もよく理解できた。
- ★優美な建築物、ミケランジェロの彫刻、ダ・ビンチやラファエロの絵画等々、芸術作品の宝庫と言える。もっと早くイタリアを訪れるべきであったとさえ思う。
- ★これまで「ルーブル美術館」、「プラド美術館」と「エルミターージュ美術館」などを見学してきたが、今回「ウフィツィ美術館」が、忘れ得ぬ思い出となった。
- ★しかしながら、これらはみな、「ヘレニズム」と「ヘブライズム」を基盤とした西欧文明の所産、「人間の賛歌」と言える。
- ★彫刻や絵画芸術が訴えてくるそのエネルギーは強烈で、ゆっくりじっくり鑑賞していると面白いのであるが、疲れてしまうことも確かである。
- ★東洋人の私にとっては、「東洋的なモノ」を鑑賞することの方が気分的に楽と感じるのは、なぜだろうか。西欧文明に偏らず、イスラム文明や東洋文明の芸術作品、思想と哲学の「復権」にも思いをはせる旅となった。  
(島田幹夫)